教　師　ノ　ー　ト

週課	第三年　第三課　第三週
単元	サムエル記・1
テーマ	主は心を見る
タイトル	油を注がれたダビデ
テキスト	第一サムエル16章
参照箇所	
暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい） 第一サムエル16：7	
AG 日曜学校教案参照箇所	

❑導入

いよいよダビデ登場です！彼はどのようにして王になったのでしょうか？

※教師は先週と今週のテキストの間の箇所（11～15章）を必ず読んでください。特に、13：1～15と15：1～35で、サウルの堕落の様子を理解しましょう。彼は、自分が神に選ばれたこと、神の助けなしには立派な王にはなれないことを忘れ、高慢になりました。

❑ポイント1　神さまはサムエルをエッサイのところに遣わされました（1－5節）

サムエルはサウルを王にしたことを悲しんでいました。預言者サムエルのことばを守らず、神さまの命令にも従わないようになっていったからです。サウルの心は、すでに神さま中心ではなく、自分中心になっていました。

そんなとき、神さまはサムエルに「エッサイのところに行きなさい。彼の息子たちの中に、新しく王になる者を見つけたから」と言われました。しかし、サムエルは「そんなことをしたら、サウルに殺されます」と言いました。すると神さまが、うまくいく知恵と命令をくださいました（2～3節）。そこで、サムエルは、神さまに言われたとおり、ベツレヘムに行き、エッサイと息子たちを、「いけにえをささげるので一緒に来てください」と言って、招きました。

❑ポイント2　神さまはダビデを選ばれました（6－13節）

エッサイの息子たちのうち、エリアブを見て、サムエルは「確かに、主の前で油をそそがれる者だ。」と思いました。ハンサムで体格も立派で、しっかりして見えたのでしょう。しかし神さまは、「彼の見た目のかっこよさや、背の高さを見てはならない。新しい王に選ぶのはエリアブではない。私は人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」とおっしゃいました。

エッサイは、ひとりずつ、次々とサムエルの前に進ませて紹介しましたが、神さまは、「この者ではない」と、どの息子も神さまが新しい王に選んだ人ではありませんでした。こうして7人の息子を見た後で、サムエルはエッサイに言いました。「子どもたちはこれで全部ですか。」 エッサイは「まだ末の子が残っています。あれは今、羊の番をしています」と答えました。サムエルは「その子を連れて来なさい」と言いました。

エッサイは人をやって、その子を連れて来させました。それがダビデでした。ダビデは元気そうで、目がキラキラ輝く少年でした。「血色の良い顔で、目が美しく、姿もりっぱ」でした。その時、神さまはサムエルにおっしゃいました。「さあ、この者に油を注げ。この者がそれだ。」

そこで、サムエルは油の角を取り、兄弟たちの真ん中でダビデに油を注ぎました。神さまに選ばれ、神さまに仕える人として聖別されたことのしるしです。「主の霊がその日以来、ダビデの上に激しく下った」と書いてあります。ダビデが実際に王になるのは、まだまだ先ですが、その日から、彼は神さまに選ばれ

た器として用いられていきます。

❑ポイント3　ダビデはサウル王に仕えました（14－23節）

　その頃、もはや神さまの霊はサウルを離れてしまいました。代わりに悪い霊が彼をおびえさせました。そこでサウルの家来たちは上手に立琴をひく者を捜して、音楽でサウルの具合がよくなるようにしようと考えました。

　すると、ひとりの家来が「私はベツレヘム人エッサイの息子を見たことがあります。琴がじょうずで勇士であり、戦士です。ことばには分別があり、体格も良い人です。主がこの人とともにおられます。」と言いました。ダビデのことです。

　ダビデはサウルのもとに来て仕えるようになりました。サウルはダビデをとても気に入り、愛しました。悪い霊がサウルに臨むたびに、ダビデは立琴を手に取って弾きました。そうすると、サウルは元気を回復して、良くなり、悪い霊は彼から離れました。ダビデは立琴を演奏するだけでなく、サウルの道具持ちにもなりました。

☞主からの悪い霊・・・神から出るものが悪であることはあり得ない。しかし世にある悪い霊も、結局は神の支配下にある。神が、聖なる霊をサウルから取り去られたとき、代わりに悪い霊が入ることも、神にとっては想定内だった。そういう意味で、悪い霊も、神の主権のもとに、サウルに入ることができたと言える。

❑結論　神さまは、ダビデをイスラエルの王に選びました

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

　サムエルがエッサイの息子たちを招いたとき、ダビデはその場に来ることも必要と思われず、みんなの代わりに羊の番をさせられるような、小さな末っ子でした。しかし、神さまはダビデの心を見て、王に選ばれました。

1．神さまは心を見てくださるお方ですから、私たちも、外見で自分や相手を判断しないようにしよう

・神さまは、外見でなく、私たちの心を見てくださっています。神さまは、身長や顔立ちやファッションなどはもちろん、みなさんのテストの点数や運動会の順位で、価値を判断することはありません。ですから、みなさんも、人をうわべで判断しないようにしましょう。

・まず、自分自身のことを外見や能力によって、人と比べて「自分はダメだ」とクヨクヨしないようにしましょう。神さまは「うわべ」でなく、ありのままのあなたを愛しておられます。あなたも自分を「うわべ」で判断しないようにしましょう。また逆に自分の「うわべ」について、人に自慢したりしないようにしましょう。

・そして、お友だちに対しても同じです。「うわべ」で、人をイイとか悪いとか決めてはいけません。カッコいいとか、顔がカワイイとか、成績がイイとか、お金持ちとか、オシャレとかでお友だちを選ばないでください。特に、お友だちの「うわべ」について、悪口を言うことは絶対にしてはいけません。神さまは、すべての人を「高価で尊い」という眼差しで見ておられます。あなたも「高価で尊い」という眼差しで、すべてのお友だちを大切にしましょう。

2．神さまは私たちの心を見てくださるお方ですから、神さまに喜ばれる心になろう

・「うわべ」（外見や成績など）は目に見えるのでいつも気にするかもしれません。しかし「心」は目に見えないので後回しにしていないでしょうか。「うわべ」より「心」を良く成長させましょう。そのためには、聖書のことばをしっかりきくことが大切です（Ⅱテモテ3：16～17）。

・では、神さまは、どんな心を見て喜ばれるのでしょうか？ダビデの心はどんな心か？詩篇23（神さまを信頼する心）、詩篇51（正直に悔い改める心）、103篇（感謝する心）などを読みましょう。何でもご存じの神さまは、私たちの心がカンペキでないことはご存じです（エレミヤ17：9、きたない思い・ズルい考え・ねたみ・意地悪・高慢などがある）。それでも愛を持って心を見てくださるのですから、怖がることはありません。そんな私たちを救ってくださった愛にいつも感謝する心、すぐに悔改める正直な心、弱くても神さまを信頼する心などが喜ばれるのです。何でもご存じの神さまが心を見てくださるのですから、心を隠そうとすることは無駄です。心を見る神さまは、見張っているのではなく、見守ってくださるのです。どんな心でも神さまにオープンにしましょう。